

ガラテヤ人への手紙 3 章 26 節「人を救う普遍的力」

清野 勝男子 牧師

母教会のみなさんにお礼を言いたくて来ました。79 歳になって、終活をして、人生の総括をしています。お礼を言わねばならない人が居ることに気づき、せつかなので御礼行脚をしようと思い立ったのです。宣教師として祈られ、15 年間も支援されました。そしてそれをまとめるために留学しましたが、報告もしないで牧師に成ってしまいました。人生の最後に報告とお礼をさせて下さい。それでは、宣教師としてインドネシアに行ってから 40 年を短く紹介しましょう。

清野宣教師の奉仕報告とその証し

以上のような宣教師生活からの確信したことがあります。

キリストの福音はいかなる民族、文化、国籍にあっても、誰でも救いうる福音、誰でも信仰によって義と認められ揺るがない平安を与える力であり、誰でも新しい力を与える命であり、誰でも信じる者を救う神の力です。教会が持つものは、『キリストの福音の普遍的な力』なのです。

さらに素晴らしいのは、それ故に教会という聖徒の群れは、もともと全人類的なものであり、もともと全世界的なものです。教会が持つものは『キリストの教会の世界性』なのです。

教会が持つものは二つで『キリストの福音の普遍的な力』であり、『キリストの教会の世界性』なのです。それ故に世界宣教の使命が教会に託されているのです。

私は今 79 年の人生を振り返って、心から主に感謝しています。歴史認識から始めた人生で良かった、と。それによって、福音の力と教会の世界性に気付いたからです。

この二つの恵みの中に生きましょう。